

## ■ご挨拶

# 風力発電を取り巻く課題とこれから

## — 理事就任ご挨拶 —

日本風力発電協会 理事 鈴木 章弘  
株式会社 風力エネルギー研究所 代表取締役



### 理事就任にあたって

2014年5月の定時社員総会で会員の皆様の御信任をいただき、理事に就任いたしました。以前は環境部会長を担当していましたが、今年度は塚脇副代表理事、祓川副代表理事と共に、政策部会の副統括を担当いたします。

風力発電が信頼できる発電システムとして社会に受け入れられると共に、風車本体や部品の製造などにおいても世界のトップを争い、国産エネルギー源の確保ができるような産業を創り出すことを目指して、微力ながら貢献する決意です。

また、当協会が、会員各位の発展を実現できるような活動を推進するよう努めます。

### 風力発電を取り巻く課題

風力発電の普及拡大に合わせるように、それに反対する活動も世界的に活発になっています。アメリカの環境保護団体が作成した報告書では、反対運動の資金が特定の産業界から提供されていたケースがあると指摘されるなど、業界団体として確固たる対応が求められる状況にあると考えています。

風力発電産業に関わる者としては、不適切な指摘に対しては、事実に基づいた科学的・論理的な主張による正しい情報を繰り返し発信することが大切であると考えます。そうした情報を広く発信する機関として、JWPAの役割は大変重要です。

例えば、風車から発生する超低周波音で健康被害を受けるといった、事実に基づかず、科学的な根拠に欠ける主張に対しては、計測データという事実に基づいた情報提供を積極的に進める段階にあると思います。

その一方で、風車からは可聴音域の騒音が発生するなど、周辺環境に与える影響があるのも事実です。発生音の低減を目指した研究開発や、設置計画策定時の地域への配慮、事業そのものの理解と協力を得ることなど、地域に根ざした事業とすることも大切です。社会受容性に十分

に配慮して事業を推進できるよう JWPA 会員各位のご協力をいただけますことをお願い申し上げます。

環境影響評価法を取り巻く問題に関連して、海外の環境アセスメント制度と比べて日本は要求が過剰である点について、機会がある毎に指摘をしてきました。JWPA からの提案によって、期間の短縮化についての議論が具体化しており、今後の協会活動の成果に期待したいと思います。

### (株) 風力エネルギー研究所の紹介

2004年10月に設立、この10月に設立10年の節目を迎えます。風力発電技術の専門家集団として、風車設計に関わる荷重解析や空力弾性解析などの機器設計支援業務、風況解析・発電量予測などの風力発電事業支援業務といった技術コンサルティングを中心に、各種の委託研究及び調査業務を行っています。

風車に関する国際規格である IEC61400 規格の策定にも積極的に参画しています。着床式及び浮体式洋上風車、日本の自然環境に適合した台風及び乱流を考慮した風車クラスの制定、支持構造物に関する規格策定に貢献しています。また、国際的認証制度として 2014年9月に新たに発足する予定の IECRE 認証スキームの設立審議にも参加しています。この認証スキームは、風力発電だけではなく、再生可能エネルギー全般を認証制度の対象としています。まずは①風力発電、②太陽光発電、③海洋エネルギー発電（潮流タービンなど）、の3分野で制度がスタートすることとなります。

風力発電の普及と電力システムの中で果たす役割の重要性、機器の大形化など、産業の成長と共に、第三者認証の必要性が認識されており、IECRE スキームの発展に期待するところです。

今後とも会員各位のご指導の程よろしくお願いいたします。